



「気象科学事典」

日本気象学会編

1998年，東京書籍，637ページ
定価11,429円（本体）

本書は日本気象学会理事会が小倉義光会員（現在は名誉会員）に編集委員長を委嘱し，その下に設置された編集委員会が定めた編集方針に基づいて項目を選定し，100名近くの会員らの執筆により約3年の歳月を費やして完成刊行された。

その編集方針によると，気象に関心をもつ一般読者，気象関連事業従事者，中学・高校の教師，国家資格「気象予報士」受験者などを中心的な読者と想定し，気象の研究者や専門家も利用できるように配慮したという。

項目数は約1700で，小項目主義で選定されているが，特に重要な項目については大項目として詳述している。項目やその数は類書と大同小異であるが，最近の5年間は気象関係の本格的な事典は刊行されていないので，当然のことながらかなりの新しい項目が取り上げられている。特に予報士制度の導入，予報の自由化など気象事業を取り巻く環境は大きく変化し，気象に対する関心は今までになく高まっている。これに対応する内容を盛った本書は時宜になかった刊行といえよう。

また，オゾン層の破壊，地球温暖化など地球環境問題の深刻化とその知見の発展も目覚ましいものがあるが，最新の学説に基づく解説内容は信頼することができる。

ISCCP，アジェンダ21，ADEOS，ウェザーキャスト

ター，オゾン層破壊，環境基本法，海洋大循環，環八雲，気象業務支援センター，気象予報士，GOOS，CLIPS，黒潮，GLOSS，降水短時間予報，座標系，GCOS，GWP，GTOS，GPS（気象学），スーパークラスター，スピニングアップ，大気海洋大循環結合モデル，炭素循環，ドップラーレーダー（観測），ニューラルネットワーク，爆弾低気圧，ハロカーボン，ハロン，フロン，ヘクトパスカル，マルチセル雷雨，密度成層流体，MUレーダー，メソ対流系，夜間ジェット，RASS，モンテリオール議定書などは従来の気象関連の辞書にはみられない項目である。

本事典の特徴としては，メソ気象や気象レーダー，海洋と大気の相互作用，地球環境問題関連の項目や気象関係の基礎的な物理学に力点を置いているように見受けられ，幅広い層を対象とした編集方針の反映といえよう。

巻末の資料は多彩であり，利用価値の高い内容である。特に世界の気象関係機関のホームページアドレスや国内関係機関の名簿などは最新の情報として読者に勧誘されよう。和英の索引もコンパクトにまとめられている。

本書の内容とは直接関係ないが，所属機関が付記された執筆者リストについて触れておく。本書のような息の長い刊行物では所属は無記載の方がすっきりしている。「広辞苑」や「気象の事典（東京堂，1993）」、「気候学気象学辞典（二宮書店，1985）」の執筆者のリストにも所属機関は記載されていない。また，百科事典類の多くも無記載である。念のため指摘するが，筆者が知るかぎりでも，本書の名簿の中には，すでに発行時点で旧所属ととなってしまったものが2箇所みられる。

（成蹊大学 関口理郎）